

排出事業者のための有益情報満載ニュースレター

WASTE TODAY

1月号
2025

2025.1.30

発行者：株式会社リーテム



今月のテーマ

「建設リサイクル分野における循環型社会の構築ーリサイクルの現状と課題ー」

建設リサイクル分野においては、“2025年までに質の高い資源循環に向けて大きく動こう”という見通しを2018年11月のコラムでお伝えしました。それから6年が経過していますが、現在の建設リサイクルの状況と課題、また“質の高い資源循環”における取組状況について、2回にわたり掲載したいと思います。



建設廃棄物の再資源化の状況

建設工事から発生する廃棄物（以下「建設廃棄物」という）のうち、建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律（以下「建設リサイクル法」という）において分別解体や再資源化が義務付けられている特定建設資材廃棄物（コンクリート、コンクリート及び鉄から成る建設資材、木材、アスファルト・コンクリート）は再資源化・縮減率の平成30年度の目標値を達成しています。

一方で、様々な種類の建材が混合状態になり、分別が難しい建設混合廃棄物については、目標は達成しているものの、再資源化・縮減率は63.2%に留まります。

表1 建設廃棄物の再資源化・縮減率と目標の達成状況

	平成 20年度	平成 24年度	平成 30年度	平成30年度の 目標値	目標達成 状況
アスファルト・コンクリート塊の再資源化率	98.4%	99.5%	99.5%	99%以上	達成
コンクリート塊の再資源化率	97.3%	99.3%	99.3%	99%以上	達成
建設発生木材の再資源化・縮減率	89.4%	94.4%	96.2%	95%以上	達成
建設混合廃棄物の再資源化・縮減率	39.3%	58.2%	63.2%	60%以上	達成

出典：「国土交通省、平成30年度建設副産物実態調査結果」からリーテムにて作成

https://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/region/recycle/d02status/d0201/page_020101census.htm



建設廃棄物のリサイクルを阻害する要因

建設廃棄物は、建築物の新築工事から発生する“新築系廃棄物”とリフォーム工事や解体工事から発生する“解体系廃棄物”に分類され、“新築系廃棄物”は再資源化率が高く、再生材として生まれ変わるものも多くある一方で、“解体系廃棄物”はサマールリサイクルや埋立処分されるものが多い傾向があります。これら“解体系廃棄物”のリサイクルを推進する必要がありますが、表2のような要因によりリサイクルが困難な状況にあります。



株式会社リーテム

〒101-0021 東京都千代田区外神田2-15-2 新神田ビル7F

TEL. 03-5256-7041 Mail. info@re-tem.com <https://www.re-tem.com/>

表2 “解体系廃棄物”のリサイクルを阻害する要因

リサイクル阻害要因	内容
ストック期間が長い	建築物は使用される時間が長いため、新築時の情報が残っておらず、建材の素材の情報がわからない物が多い。また、特にプラスチック製建材については劣化が進んでいる。これらは再生が難しく、焼却か埋立処理せざるを得ない。
リサイクルのための分別に手間がかかる	マテリアルリサイクル・ケミカルリサイクルを行うためには、品目ごとに分別をする必要があるが、解体工事現場は、工期や分別したものを保管するスペースが限られており、丁寧な分別ができない現場が多い。コストをかけることである程度の分別ができるが、施主の負担が増える。
複合建材の分別が困難	建設資材には、異なる素材が接着剤などで接合されたものや、化学物質が含まれたものがあるが、これらは分別をすることが困難であることが多い。
運搬効率が悪い	丁寧に分別を進めるほど一品目当たりの重量・容量が小さくなり、それぞれ適した処理施設に運搬すると時間とコストがかかる。分別せずに処理施設に運搬の方が効率的であるが、一方で処理施設においては分別されていないものは、組成がわからないため分別が難しく、結果としてリサイクルができない。

これらは、リサイクルを阻害する要因ではあるものの、例えばストック期間が長いということは資源効率性が高いことを示し、また複合建材は気密性や防音性などの機能性が高いため建物の省エネ化に貢献しているなど、利点が多くあります。一概に建設資材は環境負荷が大きいとは言えないことに留意し、資源循環に係る利点と照らし合わせて、総合的に評価する必要があります。

建設資材の資源循環の取組課題

現在の建設資材の利点や前項のリサイクル容易性等を踏まえつつ、資源循環を促進するための取組課題について、工程ごとに整理しました。

表3 建設資材の資源循環に関する取組課題

工程	資源循環の課題	内容
製造	長寿命化設計	建材や建築物の開発・製造において、寿命を延ばし、廃棄物の発生量を抑制する。
	易解体設計	解体・分別が容易な建築物の設計や建材のモノマテリアル化を推進する。素材の情報や分別方法については、解体工事業者に共有する。
	再生資源の利用	品質確保のための基準の設定は必要であるが、廃棄物由来の資源を建材の原料に利用する。
回収	適切な回収ルート構築	ゼネコン・ハウスメーカーによる発生した廃棄物の小口循環回収や広域認定制度を利用した建材の製造者による自社製品の回収など、効率的かつ広域的に回収する。
処理	選別技術開発	中間処理施設においては、AIやロボットを活用した高度で効率的な選別技術を開発し、再生利用可能な高品質な再生資源を生産する。

参考：環境省,第五次循環型社会形成推進基本計画 <https://www.env.go.jp/recycle/circul/keikaku.html>
 経済産業省,循環経済ビジョン2020
https://www.meti.go.jp/shingikai/energy_environment/junkai_keizai/pdf/20200522_02.pdf

編集後記

建設資材は、他の製品とは使用や排出の状況が異なり、リサイクルが難しいことがあります。しかしながら、省エネ型住宅など、環境配慮型の製品開発が進んでいるのも建設分野です。機能性とリサイクル容易性は相反することがあることを考慮に入れ、機能性を求める動脈産業（製造）とリサイクル容易性を求める静脈産業（リサイクル）の企業の垣根を超えた新たな取組により、資源循環を進めていくことが必要です。次回は、建設資材の資源循環の状況についてお伝えします。



コラムの更新やサービスに関するお役立ち情報をお知らせするメールマガジン（月1回程度）を発信しています。配信希望の方は以下の「お問い合わせ」をクリック！
 項目から「メールマガジン配信希望」を選んでください。 <https://www.re-tem.com/contact/>



株式会社リーテム

〒101-0021 東京都千代田区外神田2-15-2 新神田ビル7F
 TEL. 03-5256-7041 Mail. info@re-tem.com <https://www.re-tem.com/>